いわて復興だより

がんばろう！岩手　つながろう！岩手

三陸復興

第 71 号
平成 26 年 9 月 15 日号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切にしていきたいと思います。

沿岸ではサンマの水揚げが進み、田園には黄金色の稲が収穫を待ち、秋を感じる今日この頃。

復興に向けて歩み続ける岩手の今を紹介します。

9/5㊎　竹下復興大臣が就任後　初の来県！

９月５日（金）に、竹下復興大臣（島根２区）が着任後初めて岩手県を訪問しました。

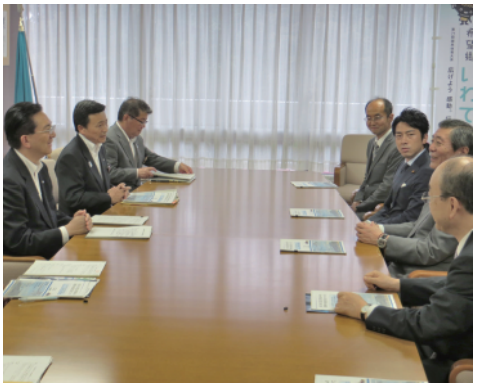
竹下復興大臣は、小泉政務官ら随行者と共に県庁を訪れ、達増知事と財源や人的支援など、今後の復興について意見交換を行いました。

竹下復興大臣は、９月３日（水）に発表された第２次安倍改造内閣で復興大臣に着任し、小泉政務官は前回からの留任（岩手の復興を担当）です。

国の集中復興期間は平成 27 年度までとなっており、平成 28 年度以降の復興財源が不透明となっています。このため、集中復興期間の延長を平成 26 年 7 月 10 日に被災４県（青森、岩手、宮城、福島）合同で要望してきました。

意見交換の中で竹下復興大臣は、復興財源について「必要な分は確保する」と話しています。

竹下復興大臣を出迎える達増知事



意見交換の様子

竹下復興大臣（右）小泉政務官（左）

三陸鉄道、震災後初の黒字に！秋のイベント列車も予約好調！

東日本大震災津波で被災し、平成 26 年４月６日に全線復旧した三陸鉄道の四半期の経常収支（４月～６月）が 3,776 万円の黒字となり、前年同期の 3,581 万円の赤字を大きく上回り、震災後初めて黒字となりました。

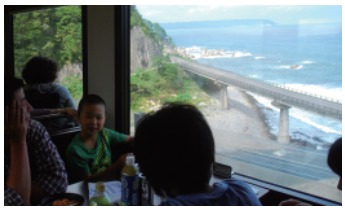
三陸鉄道によると、５月の大型連休を中心に観光客や団体客が増加し、４～６月の輸送人員は、前年同期比 69%増の 20 万 9,749 人を記録。運賃収入は 137%増の約１億 2,500 万円と大幅に伸びました。

昨年のＮＨＫ連続テレビ小説「あまちゃん」の舞台として人気となったことに加え、三陸鉄道全線の復旧などが観光客を後押ししたとみられます。

三陸鉄道北リアス線では、久慈北限の海女のスタイルでアテンダントが乗車するお座敷列車「北三陸号」（10/13 までの土・日・祝で運行）や昭和初期をイメージし、内装も華やかなデザインのレトロ列車「さんりくしおさい号」（11/30 までの土・日・祝で運行）などユニークな企画列車が運行しています。復興のシンボルとして注目される三陸鉄道は、地元地域の交通手段としてだけでなく、観光面からの地域活性に期待が寄せられています。

賑わいをみせる三鉄久慈駅のホーム

北限の海女スタイルのアテンダント



車窓から見た絶景ポイント

レトロ列車の車内の様子

いわて復興応援団（員）大募集中！

知って、買って、食べて、行って応援！

登録無料

首都圏等にお住まいの方を対象に、応援団員（個人）と応援団（法人及び団体）の登録を募集しています。登録者には岩手県の復興の取り組みや観光・物産・首都圏でのイベント情報などをお届けします。

詳しくは岩手県東京事務所ホームページをご覧ください。　いわて復興応援団　検索

「サンマ」初水揚げ！本州で一番乗り！水産業の復興に弾み　大船渡市

８月29日(金)、本州で今年初となるサンマが、大船渡市の魚市場に水揚げされました。

サンマは、地元の「第18三笠丸」（199トン）が北海道根室沖で捕った約20トンで、１キロ1,200～1,300円の値が付きました。

初水揚げは、昨年より１日遅いものの数量は昨年の２倍。また、160グラム以上の大型のものが多く、脂の乗りも良く、東日本大震災津波で壊滅的な被害を受け、今年４月に完成した新しい魚市場は、秋の味覚の到来に活気づきました。

大船渡港の昨年のサンマ水揚げ量は、１万4,585トンで本州１位。

新魚市場でのサンマの初水揚げは、水産業への復興に弾みがつくと、関係者らは期待を寄せています。

新魚市場に初水揚げされたサンマ（写真提供：大船渡市）

大槌中２年生が地元特産品をPR、販売会を開催　盛岡市

９月２日（火）、東日本大震災津波で大きな被害を受けた大槌中学校の２年生89名が、盛岡市内３カ所（カワトク前、クロステラス盛岡前、肴町アーケード街）で地元の特産品を販売、大槌町の魅力を元気にＰＲしました。

販売会は、地元の復興に携わりたいという生徒たちの想いから、宿泊研修に合わせて企画された初の試みです。

肴町アーケード街会場では、そろいの法被を身に着けた生徒たちが、手づくりのチラシを配りながら、地元の海産物やお菓子、野菜などおよそ２０品目を販売しました。

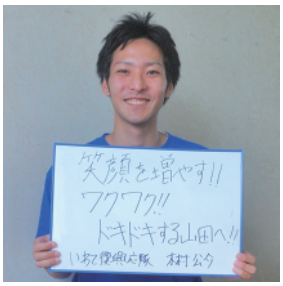
商品の販売を担当した藤原愛（まなみ）さんは、「初めは不安だったが、実際行ってみると楽しかった。地元の商品をPRすることで大槌の魅力を伝えたい。」と笑顔で話してくれました。

笑顔で接客する大槌中学校の生徒たち

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。
第25回目は、木村 公介さんを紹介します。

未来のさんりくびと

社会福祉法人
山田町社会福祉協議会
山田町社協復興支え愛センター
木村 公介
（きむら こうすけ）さん



木村さんからのひと言：
笑顔を増やす !!
ワクワク !! ドキドキする山田へ !!

PROFILE

静岡県牧之原市出身。
平成24年、大学４年生の夏にボランティアとして山田町社会福祉協議会の事業に参加。同12月の冬休みには、ボランティアのバスツアーを企画し、山田町の仮設住宅や公民館を使ってクリスマスイベントを行う。
その後、いわて復興応援隊に応募し、平成25年４月より山田町社協復興支え愛センターに配属され、現在に至る。

継続的な交流が生まれてほしい

木村さんは、ボランティア活動の経験を活かし、地元のニーズに合わせた「町民の生きがいづくり」をサポートする事業を行っています。町内の飲食店に協力を得た「料理教室」や、町内の陶芸教室の講師を招いた「工作教室」、山田町の魅力を再発見する「探検教室」など、ボランティアの方に頼らず、町民の交流が出来る企画を開催してきました。

ボランティアの方が地元に戻った後も、交流が継続的に続いて欲しいと考える木村さんは、ボランティアをしていた方が、再び岩手県を訪れた時に「あそこにいるあの人に会いに行ってみよう」という関係が作れていると、県外の方との交流も面白くなるのではないかと考えているようです。

皆で街づくりについて話せる機会を

木村さんが山田町に配属されてから１年半、ガレキや残っていた家の基礎もなくなり、盛土も進み、街が変わっていく様子について「住民の方々は、ハード面が変わっていくことで復興を実感することも多いと思います。ただ、そのスピードは遅いと感じているかもしれません。無理して急ぐよりも、街づくりの方針や計画などを皆で話していける機会が増えればいいと思います。しかし、焦りを感じる人もいますから、メンタル面のケアも重要ではないでしょうか。」とこれからの山田の街づくりについて語ってくれました。

岩手県の被害状況　平成26年８月31日現在

▶人的被害　死者（直接死）：4,672名　行方不明者：1,132名
▶建物被害（住家のみ、全半壊）　25,716棟

被害状況等の詳細
義援金・寄付金の募集等　いわて防災情報ポータル　検索

皆さんのご支援、ありがとうございます　平成26年８月31日現在

▶義援金受付状況　約181億5,958万円（89,806件）
▶寄付金受付状況　約195億7,121万円（6,922件）
▶いわての学び希望基金受付状況　約69億5,166万円（13,960件）

※ 被災したこどもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富な【いわて復興だより Web】もご覧ください !!　http://iwate-fukkoudayori.com

いわて復興だより　第71号　平成26年９月15日号　企画・発行：岩手県復興局復興推進課　☎019-629-6925
いわて復興だよりバックナンバーは　いわて復興だより　検索
編集・印刷：シナプス